

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

平成19年大口町教育委員会 8月定例会議

平成19年8月23日

午前9時30分 開 議

大口町健康文化センター 1階 多目的室

日 程

1. 開 会

2. 報 告

(1) 委員長報告

(2) 教育長報告

3. 議事録署名者の指名

4. 議 題

議案第40号 大口町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正について

議案第41号 大口町教育委員会後援名義の使用許可について

5. 協議事項

(1) 明日の学校づくりについて

(2) 行事予定について

(5) その他について

出席委員

委 員 長 吉 田 哲 也

職 務 代 理 者 丹 羽 孝 子

委 員 丹 羽 茂 文

委 員 伊 藤 洋 子

説明のため出席した者

教 育 長 井 上 辰 廣
参 事 野 田 敏 秋
学 校 教 育 課 長 江 口 利 光
課 長 補 佐 宇 野 直 樹

教 育 部 長 鈴 木 宗 幸
参 事 三 輪 恒 久
指 導 主 事 田 中 将 弘
課 長 補 佐 渡 辺 靖 幸

◎開会

○鈴木教育部長 皆様、おはようございます。

猛暑が続いておりましたが、きょうは雨ということで、大変足元の悪い中を定例会に御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまから始めさせていただきたいと存じます。

最初に、委員長さんより御報告やらごあいさつをいただきたいと思います。お願いいたします。

○吉田委員長 おはようございます。

きょうの雨で、本当に大変な暑さでしたが、ほっと一息つけました。大体こういうときに夏の疲れが出るようですので、皆さんお気をつけてお過ごしください。また、本日はお忙しいところを御出席いただきましてありがとうございます。

特に報告ということはありませんので、よろしくお願いいたします。

○鈴木教育部長 ありがとうございます。

続きまして、井上教育長よりごあいさつ、そしてまた御報告いただきたいと思います。お願いいたします。

○井上教育長 改めまして、おはようございます。

大変な暑さの毎日でございました。少し体力的に限界かなあと感じておりましたが、きょうは雨になり、気温も下がっております。「時により過ぐれば民の嘆きなり 八大竜王雨やめたまへ」と、実朝が「金槐和歌集」の中で言っておりますが、いよいよ秋のシーズンでございます。台風が心配でございますが、大変ダイナミックな気候になっておりますので、2学期に向けて台風のないような平穏な日々だといいなあと、そんなことをけさは思ったわけでございます。

既にここにでかでかと立ててありますので、これからいきたいなあとと思いますが、長い間かかって公募をしました校章が決まりまして、表彰をさせていただいたわけでありましたが、校旗を注文しました。もっと先でもいいんですが、時期によって大分値段が違うようでありますので、春に向けては大変高くなるということでもありますので、注文したのができてきております。ごらんおきをいただきたいなあと、なかなかいいのができたなあとと思いますが、立派なものできてまいりました。大変色が難しかったようでございますけれども、いいできでないかなあと、こういうふうになっております。大体 100万は超すというようなことでもありますけれども、そんなにかからず80万切るぐらいのところできたのではないかというお話であります。大変上手にやっていただけたなあと、こういうふうになっているところでございます。

それからもう一つであります。ここに盾と賞状をいただいてきております。これは「大口

町立学校給食センター殿」ということで、平成19年度の学校給食調理コンクールというのに応募をされまして、佳作であります、県の教育委員会と学校給食会からいただいていたものでございます。西尾恭子さんという給食センターの栄養士さんのエントリーによって、実は県で290チームが参加をして10チームが入賞、それから10チームが佳作ということですが、その佳作の中に入ったということございまして、また役場の玄関にでも飾っておきたいなあ、あるいは広報で広く広報をしたいなあ、こういうふうに思っているところでございます。またごらんをいただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

現在、先ほど紹介がありました職場体験中ございまして、大中、北中、21日から24日までの3日間の間にいろんなところで職場体験をしていくということで、職場体験中でございます。2年生でございますが、これは御承知おきをいただきたいなあ、こういうふうに思っております。

それから、現在、中学生の海外派遣ということで海外に出ていっております。あした、24日のお昼ごろには帰ってくるという段取りでございますが、きのうも団長の戸田先生から、3時ごろでしたが電話をいただきました。大変順調にやっていると。いろんな面でうまくいっておりますということで電話がありました。あした無事に帰ってきてほしいなあ、そういうふうに思っているところでございます。

なお、この夏の間、8月の5日、6日は広島へ2年生の生徒12名が出ていきました。これも無事に終わっております。あるいは、また後で報告させていただきますが、夏の大会でございますが、これも大変活躍をしてくれまして、特に大中の女子のバレーボールが東海大会へ出場というようなことでございます。管内優勝、西尾張も優勝しまして、県で3位と。そして東海大会に出ていきました。東海大会に私も応援に行きましたけれども、第3セットジュースで、どちらが勝つかわからんようなゲームございまして、大変惜しかったなあ、こういうふうに思っておりますが、よく頑張っただこまで来られたなあ、ということをおもっております。あと、ライオンズの弁論大会がございました。そんなふうで、ことしの夏も今のところ大きな事故もなく、順調に推移をしてきております。

これからいよいよ2学期に向けての準備の段階に入っていきます。学校の建設の方も順調に進んでおりまして、また明日の学校づくりのところで御報告を申し上げたいと思っておりますが、検討委員会の見学だとか、これからサポートクラブ等、学校をサポートする組織の成立を図っていききたいなあ、そういうふうに思っているところでございます。

以上、何点かございしましたが、とりあえず報告をさせていただきます。以上でございます。

○鈴木教育部長 ありがとうございます。

それでは、次第の3番の議事録署名者の指名以降につきましては、委員長さんの取り回しで

お願いしたいと思います。

(午前 9時36分)

◎議事録署名者の指名

○吉田委員長 それでは、議事録署名者の方ですが、私と丹羽茂文委員、お願いいたします。

◎議 題

○吉田委員長 それでは、4番の議題に入ります。

◎議案第40号 大口町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正について

○吉田委員長 議案第40号 大口町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正についてお願いします。

○宇野課長補佐 議案第40号であります。

提案理由につきましては、郵政民営化法及び郵政民営化法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律が施行されることに伴い、この規則の一部を改正するために必要があるからであります。

1枚はねていただきまして、大口町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を次のように改正する。

様式第21の注意事項第5項中「又は郵便貯金の利子所得の非課税取扱い」及び「又は郵便局」を削る。

附則として、この規則は平成19年10月1日から施行するということであります。

次のページに規則を載せさせていただいております。ここには直接該当はございませんが、5ページの裏側、様式がついてございますが、いきなり38ページに飛んでございます。これが様式第21でございますが、次の39ページの右の上側に「旧」と書いてあります。これが今現在の様式第21でございます。こちらの表の下から3行目、2行目に下線が引いてございます。

「又は郵便貯金の利子所得の非課税取扱い」、それからその下の行に「又は郵便局」、この下線部分を削除させていただくという改正であります。それで、裏面の方に「新」ということで、この下線部分を削除したものを載せさせていただきました。

その次の資料につきましては、郵政民営化関連法に伴う例規整備ということで書類を載せさせていただきましたが、これの8ページをごらんいただきたいと思います。

黄色い蛍光ペンで囲んでございますが、ちょうどこの部分が該当するということで、参考までに載せさせていただいておりますので、お目通しをいただきたいと思っております。郵政民営化関連法というのは、なかなか説明もうまいことできませんが、今回の改正につきましては、この下線部分を郵便局の関係だけ削除するということでもありますので、よろしく申し上げます。以上です。

○吉田委員長 要は、郵便局も一般の金融機関として扱うということによろしいですね。

○宇野課長補佐 そうです。金融機関で統一ということでもあります。

○吉田委員長 特に問題はないと思いますが、よろしいですね。

(異議なし)

○吉田委員長 では、承認いたします。

◎議案第41号 大口町教育委員会後援名義の使用許可について

○吉田委員長 議案第41号をお願いいたします。

○宇野課長補佐 議案第41号は、後援名義の使用許可でございます。

1枚はねていただきまして、こちらも毎年恒例でございますが、愛知江南短期大学地域協働研究所から申請が出てまいりました。愛知江南短期大学オープンカレッジということでございます。

裏面に収支予算書が載せてございます。収入の部で受講料が805万6,046円、それから支出の部が911万6,159円、差額の106万113円につきましては大学の負担となるということでございます。

最後のページに開講科目、講座名がずらっと並んでおります。以上です。

○吉田委員長 毎年のごとく、好評であるということを知っておりますが、これについても御質問、御意見はよろしいですかね。

(異議なし)

○吉田委員長 じゃあ、こちらの方も例年のごとく承認をいたします。

◎協議事項

○吉田委員長 それでは5番の協議事項(1)、明日の学校づくりについてお願いいたします。

○江口学校教育課長 お願いします。明日の学校づくりについてお願いをいたします。

あさって25日の土曜日ですが、明日の学校づくり検討委員会を開催いたしまして、第2回目になります。統合中学校の現場を視察いただくという予定にいたしております。

それからそのときに、先ほど教育長先生の方からお話がありましたが、新しい大口中学校の

支援組織についてということも議題にいたしまして、委員の皆様方から御意見等をいただけたらなあと思っております。

それで、この統合中学校の建設に当たっては、御承知のとおり五つの基本コンセプトというのがございます。その中の一つになりますが、地域に開かれた学校づくりということがございます。それで、現在、学校施設の開放といたしましては体育館とグラウンドを開放しているわけですが、これ以外のいわゆる一般開放部分として予定をいたしております特別教室を、地域の交流の場として住民の方が利用できるようにしていくためにはどういった管理体制で行っていくといいのか、あるいは住民の方々の協力を得ていくためにどういった組織を考えていくといいのか、こういったことにつきまして委員の皆様方から御意見をいただきたいなあというふうに考えております。

それで、教科センター方式を中心にした学校経営がある程度軌道に乗らないと、どういった連携をしていけばいいのかということが見えてこない部分があるかと思えます。それで、事務局といたしましては、今のところどういった形でやっていくといいのかという具体的な案については、特に持っておりません。今後、大口町の個性ある中学校にしていくためにはどういったふうにしていったらいいかということを検討してまいりたいと思っております。このことについて、御意見がいただけたらなあというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○吉田委員長 わかりました。

今の意見をいただくというのは、土曜日の委員会ということですね。

○江口学校教育課長 はい、検討委員会の中で。

○吉田委員長 御質問ありますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

○吉田委員長 では、(2)の行事予定について、お願いいたします。

○宇野課長補佐 9月、10月と掲げさせていただきました。

まず9月でございますが、2日の日曜日、地区別ソフトボール大会、それから5日の水曜日から9月議会が開会されます。

6日木曜日が学校連絡会。

7日の金曜日があいさつ運動でございます。

8日の土曜日でございますが、ふれあいルームおおぐち講演会ということで、13時30分から健康文化センターの方で、石川道子先生をお招きして講演会を開催いたします。

9日日曜日地区別のソフトボール大会ということでございます。

15日の土曜日、やろ舞い大祭が開催をされます。

9月の後半に参りまして、20日の木曜日ですが中学校の体育大会、それから23日の日曜日が小学校の運動会。

26日水曜日、9月議会の閉会でございます。

それから、9月の定例会につきましては27日の木曜日を予定させていただきましたので、また後ほど御協議をいただきたいと思っております。

29日土曜日が町の防災訓練であります。

10月に入りまして1日の月曜日でございますが、教育委員の辞令交付式、時間等々、まだこれは予定でございます。それから、教育委員会臨時会議を9時30分から予定させていただいております。

4日木曜日、南小学校の学校訪問でございます。

5日の金曜日があいさつ運動、それから給食センターの方で献立委員会が15時30分からであります。

7日日曜日、町民体育祭。

10月の後半に参りまして、22日の月曜日が丹葉事務協でございます。13時30分から、扶桑町の図書館。

10月の定例会につきましては、24日水曜日を予定させていただいております。こちらにつきましては、まだ来月になるかと思っております。

25日の木曜日でございますが、中学生海外派遣事業の研修報告会、16時30分から中央公民館で開催されます。また御案内の方をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

28日の日曜日、9時30分から小口城址公園におきまして、伝統芸能発表会を開催させていただきます。

29日月曜日が西小学校の学校訪問でございます。以上です。

○吉田委員長 では、差し当たっては9月27日の定例会の方は、皆さん御都合よろしいでしょうか。

運動会、体育大会、またお忙しいところ大変ですが、御出席をお願いいたします。

それでは、行事予定は以上でよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○吉田委員長 では、(3)番、その他について。

○宇野課長補佐 お願いします。

まず、先ほど教育長先生からお話がありました平成19年度の中学生部活動の成績等、一覧をまとめさせていただきました。先月の定例会でも配らせていただきましたが、今回は西尾張

大会出場、それから県大会、東海大会についての成績の報告であります。

まず1枚目の方でございますが、管内大会の成績を載せさせていただいて、西尾張大会に出場した卓球女子、バレーボール女子、それから陸上男子・女子、水泳男子、それから裏面にいきまして、水泳女子、卓球男子、卓球女子とテニス男子、それから新体操女子と、これだけの種目につきまして西尾張大会の方へ出場しております。種目、氏名、それから学校、成績につきましては、またお目通しをお願いしたいと思います。

それから、2枚目につきましては西尾張大会の成績ですね。団体の部では卓球女子、バレーボール女子、吹奏楽ということで、この中でバレーボール女子が西尾張大会優勝で、県大会出場であります。個人の部では、陸上男子・女子、水泳男子・女子、それから新体操女子ということで、県大会の結果を載せさせていただきました。

それからその下側で、県大会では団体でバレー部女子が県大会3位ということで、東海大会に出場しております。個人の部では、新体操女子ということで、県大会7位の成績を残しております。

それから一番下で東海大会、ことしは愛知県で開催をされました。岡崎市の総合体育館でございましたが、バレーボール女子、先ほどもお話がありましたように、フルセットの上、第3セット目がジュースの上、惜しくも負けてしまいました。1回戦で敗退という結果になっております。以上です。

○吉田委員長 ありがとうございます。

そのほか、よろしいですか。

○井上教育長 それでは、1点お願いをしたいというふうに思います。

前に、全国学力学習状況調査のお話を少ししたわけではありますが、9月に文科省の方からその結果について県教委へ報告があると、こういうような状況でございまして、県の方もこれに向かって、今組織をつくって検討をしていくという段階のようでございます。基本的には、この間も話しましたように、単なる数値だけの発表をしないで、具体的な分析の結果を発表していくと、こういうような格好になるだろうというふうに思いますけれども、今のところまだ文科省の方の動きがございませんので、それが出来たら、こういうような格好になるかと思っております。よろしくをお願いしたいと思います。

○吉田委員長 そのほかは。

○丹羽委員 先ほど課長の言われたので確認なんですけど、特別教室って何でしたっけ。

○江口学校教育課長 特別教室は、1階、2階、3階にそれぞれあるんですが、技術室、あるいは家庭科室、それから理科室、そういったものの特別教室の部分ですね。校舎の東側部分にそういった特別教室が集中してつくられるんですが、その部分の一般開放ということです。

○丹羽委員 だから、一般開放する特別教室でも、理科室なんかは一般開放するんですか。

○江口学校教育課長 そこら辺、今後、特別教室をどういうふうに一般開放していくかということも当然検討していかないかと思えますけど。

○丹羽委員 それを検討委員会で検討するということを言われたわけですか。

○江口学校教育課長 そういうことについて御意見をいただけたらなあというふうに思っています。

○丹羽委員 そうすると、まだ決まっていないわけですね。理科室だけは開放しないよとか、音楽室と家庭科室だけだよとか、決まっていないんですね、まだ。それを今度の25日の土曜日に第1回目をやるということですか。そういう話ですか。

○江口学校教育課長 そうですね。第1回目を開催して、少しでも御意見をいただけますとありがたいと。

○丹羽委員 私は、もうつくる前にいろんなプロジェクトがあったんじゃないですか、何か委員会が。あの中で、もう地域に開放する教室は決まっていて、理科室は危ないからしないよとか、それから家庭科室はお料理教室だとか、美術室はお絵かき教室に使うよというふうに、最初から決めてああいうレイアウトをされてつくられたかなあと思っていたんですが、まだそれは決まっていないわけですね。

　　だけど、大体決まっているでしょう、ああいうレイアウトをされたということは、使いやすいように、やっぱり1階部分になるべくそういうものがあって、まだ持ってみえないわけですか。

○井上教育長 なるべく開放したいという前提でございまして、例えば今の理科なんかですと薬品類だとか、いろんなことの安全の問題がありますね。それから技術科室だと動力のあるいろんなものも入ってきますね。だから、糸のこぐらいまではいいよとか、いろんなことが考えられるんですね。ですから、そのあたりをよく学校の管理の面と調整をしていかなければなりませんので、そう慌ててもいかなあという部分もありますね。

　　聖籠や、この間の石樽の状況を一遍検討しながら、できたら見学もしていただきながら検討していくのがいいかなあと、こういうふうに思っていますけれども、石樽は小学校でありますので中学校とは少し状況も違いますけど、あそこは全面的に本当に上手に開放されていますので、せっかくの施設ですからなるべくたくさん開放していきたいなあということは思っておりますけれども、それでも制限が出てきますわね、当然のことながら。

○伊藤委員 最初の設計の上で、やはり管理がしやすいようにということで、廊下で区切って特別教室を東側へ持っていかれたんですね、最初の考えとしては。

　　今図面を見せていただくと、1階に家庭科室、技術室、2階に美術室、メディアルーム、3

階に理科準備室、理科教室というふうにあるということで、ここでいくと何階まで開放するかとか、管理の面とかいろいろ話し合われるんですけど、生涯学習課の方からそういう……。

○井上教育長 その辺もやっぱり検討しておかなければいけないんですが、現在のところでは、運動場の施設の貸し出しについては基本的には生涯学習課が従来どおり管理をしていくと、こういうことは確認しております。

これからいろいろ検討していかなければならない、学校の管理との調整もあるものですから、一概に全部というようなわけにもいかないだろうと思いますので。

理科なんか薬品の管理が非常に難しゅうございまして、この準備室や何かの管理もどうしていったらいいかというようなことになるとと思いますので。

○伊藤委員 どこまでが校長先生の責任範囲で、どこからがそれ以外のことになっていくのかという、何かあったときの責任問題ということも、管理主義みたいなもので問題になってくるかと思しますので、慎重に御検討いただかないといけないことですね。

○丹羽委員 一般開放されたときの管理責任はどこになるんですか。

○井上教育長 これは学校でございまして、まずは学校ですね。学校の管理責任というのはありますね。ただ、そういうふうに使っていく部分があるものですから、これについてどうするかということなんですね、今。

ですから、生涯学習課のこの間の話ですと、まずは運動場はいいよと、こういう話でありまして、学校の部分については協議をしてもらわないかんよと、こういうことでありますから、この辺のところをこれから検討していかないかんというふうに思っていますが。

○丹羽委員 通常はどうなんですか、今までの通例からいくと。例えばお料理教室をやったと。

○井上教育長 通常ですと学校管理です、基本的には学校施設ですからね。

ただ使っている部分については、使用者や生涯学習に使った場合はそこが責任を持ってもらわないかん部分が出てきますね。

○伊藤委員 今ですと、土曜日に寺子屋をやってみえますね。

○井上教育長 老人学級もやっていますけどね。

○伊藤委員 それは校長先生の手から離れて……。

○井上教育長 そうです。

○伊藤委員 生涯学習課じゃなくて、あれは何でしたっけ。

○丹羽委員 NPOみたいな……。

○伊藤委員 NPOでしたか。あちらの方の団体の管理で……。

○井上教育長 使う分についてはそこで責任を持ってもらわないかんですね。

○丹羽委員 他校と違いますか、今まで我々が見学したところはお調べになっているんですか。

- 井上教育長 これについては、聖籠と石樽はちょっと違うんですけども、その仕組みがですね。組織も違いますしね。だから、どういう形でいくのかということのをこれから検討していかないかんというふうに思っていますけれども、当然のことながら、これ教育委員会の管轄下にあるものですから、最終的には教育委員会が調整をして責任を持っていかねばいかん問題ですね。
- 吉田委員長 学校の授業が最優先だと思うので、そういうのが一応、今の江口課長の話のとおり、学校の運営が決まるというか、流れができてからでない与实际難しいことだと思いますけれども。
- 伊藤委員 めどとしては、大体どれぐらいを先に見ていらっしゃるんでしょうか。
- 井上教育長 できたら、開校までに基本的な考え方だけはつくっておかなければいけないだろうと思いますが、ただ運用については実際に動いていかないと調整できない部分が出てくるんだろうと思っていますので、まずこうだという形だけはきちんとそれまでにしておくということが大事だろうと思いますけれども。
- 丹羽委員 今度検討委員会って、どういうメンバーでしたっけ。区長さんと校長先生と、どういうメンバーでしたか。
- 江口学校教育課長 一般公募ということで、各地区から推薦をいただいた方がお1人ずつ各地区見えます。その方、あるいは小・中学校のPTAの現会長さん、それから中学校の校長先生、それから北小学校の校長先生がメンバーとして入っています。
- 丹羽委員 その検討のときに、たたき台はなしですか。
- 江口学校教育課長 特にはしておりません。
- 丹羽委員 そこで教室をどういうふうに地域に開放していこうかという……。
- 江口学校教育課長 初めての提案ですので、先進事例、そういったものを紹介させていただきながら進めたいなあというふうに思っておりますけれども。
- 丹羽委員 そういうのは出されるんですね、聖籠はこうだったよとか。
- 井上教育長 うちはどういうふうにしていったらいいと思われるかという話をまずはやろうということなんですけれども。
- 丹羽委員 ああそうですか。私は、もう中学校をつくってみえるし、もうそういう方針があって、例えばここは防火シャッターか何かで、扉で下ろしちゃうとか、シャッターを下ろして隔離して、夕方の6時以降8時までにはそういうふうにするよという構想を持って設計をされたかなあと思ったんですけども。
- 井上教育長 それは一応そういう格好になっていますけど、基本的にはね。学校の部分ですね、やはり普通教室と言われる部分と、それから特別教室と言われる部分は閉鎖できると。それは

当然のことながら学校の安全という面も含めまして、基本的には閉鎖できるようになっていきますので、どこまでこれができるかなあとという、一般開放がね。

管理責任の問題もなかなか、今、P F I 方式だとかいろんなのがありまして、一般がこれを15年間はつくって管理をしてあげますよというような方式もありまして、どういう格好で、うちはP F I じゃないもんですから、当然のことながらそういうことをやっていかないかんということが出てくるわけでありましてけれども。

○丹羽委員 そうすると、全然裸の状態で今度検討されるわけですね。例えば時間帯だとか、日曜、祝祭日、土曜日はどうするんだとか、そういうことですね。

○吉田委員長 学校の先生も意識改革が必要でしょうね。今までどおりやっておったのが、計画的にやらないかんし。

○井上教育長 例えばテニスコートとかグラウンドについては今までもそうやってやっていますので、一般開放のね、できているんですが、部屋の中のことになると、例えば土・日は全然使わないかということ、ブラスバンドだとか、音楽関係はそれでまた使う日が出てきますし、これについてはやはり学校が使うのがまず最優先されると。こういう状況の中で、あいているところは開放していくという形になりますので。

○丹羽委員 有料とか無料とか、そういうのもあるでしょう。

例えば町民会館でコンサートをやるとお金を取られるんだけど、大口中学校の音楽室をミニコンサートに使うと幾らになるんだと、こういう難しい話も出てきますよね。

○井上教育長 規定をつくらないかんですね。片方はお金を取っておるのに、片方はただというわけにはいきませんので。

○吉田委員長 なかなかまだ、話をできそうで、具体的なことがなくて話が進めにくい状態だと思いますけどね。

○伊藤委員 でも、今後、統合中学校がうまく運営されていくかどうかは、ある意味でここにかかっているようなところも一つ、やはり地域の方の見守りがいいことには維持・運営がなされないとしますので、本当に大きなポイントだと思いますね。十分時間をかけて話し合っていたきたいと思います。

今委員長さんがおっしゃられたように、教科センター方式がうまく軌道に乗って、次のことが考えられるというときにね。それでないと、また住民の理解も得られないでしょうし、学校の中がまず安定して運営されていくということがあっての上での話ではないかと思っておりますけれども。

○井上教育長 準備委員会の方が五つ部会を持ちながら検討して、中身はほぼ盛れてきておるんじゃないかなあと。中身を盛っていかないかんですから、P T A部会だとか、教育課程部会だ

とか、生徒指導部会だとかという、服装や制服の問題やら、いろんな問題を協議してきていただいておりますので、そういう部分での中身はもう盛れてきたんだろなあというふうに思っております。これもその一つなんですけれども。

あとこの施設をどのように有効に利用するかという点については、いましばらく協議をしていかなければならないし、6万平米の敷地だもんですから、これをどうやって上手に管理をしていくのかということも、聖籠や石榑の例を見ていろいろ今検討しておりますけれども、聖籠なんかは塀も門も何もない学校で、ばあっと田んぼの中に広がっていますけれども、やっぱりそういう仕方というんですか、地元の方が中にちゃんと見えるという。石榑の方はそうではないんですけれども、全面的に学校の管理については建設の委員会が残って面倒を見てみえるものですから、施設設備そのものの管理の仕方も考えていかなければいけないかなあというふうに思っております、とりあえずそういう学校の例を示しながら、また当事者に会って話を聞いていただくのもいいんじゃないかなあというふうに思っていますけど。

○丹羽委員 もう少し踏み込んで言わせていただきますと、何でこういう意見を出したかといいますと、先ほど江口課長の御説明の中に、共有部分とか地域との交流の中での部分をこれから考えていかないといけないと言われたんですけれども、例えばこの間勉強させていただいた石榑小学校の場合は、設計段階だとかデザインの面だとか、いろんなものから地域の方が参加してみえるんですね。それででき上がっているから、地域の方がどんどん入ってくるから掃除も行き届いているし、ボランティアできれいに掃除もされていると。

今、大口中学校の場合はそうじゃなくて、もう設計が入って、大きなゼネコンがどんどんどんどん建てて、今度変わった教科センター方式もぼんとやっちゃうと、何かすごい建物の中のガラスのドームがあるところに生徒が入って変わった教育をやっているらしいわということで、地域との隔離ができちゃうと思うんですね。

だから反対に、見切り発車でもいいですから、地域とのあれを学校がまず安定して運営するまでなんて言っていたら、全然違ったところで、もう冷暖房完備で何かわけのわからんところでやっているぞというふうに、余計乖離しちゃうと思うんですよ。

だから、それよりもどんどん進めて、反対にお料理教室をやりますよとか、陶芸教室をやりますよとか、音楽教室をやりますよとかいって早いうちに地域を巻き込んで、そこも紆余曲折あるでしょうが、それをやらないと、いや向こうが安定するまでなんてやっていると、町民と大口中学校のところの周りに深い名古屋城のお堀みたいなのができちゃうと思うんですよ。だから、こっちも見切り発車ならばこっちも早くやらないと、石榑との違いはそこにあると思うんですね。石榑はもう最初からこういうデザインにしてほしいとか、石という字をアレンジしてここに入れてほしいなんていう遊び心も入れながら、色を茶畑にしてほしいとか、そ

んなのがあの時点からもう入っているんですよ。

今ここは、いろんな地域からお1人ずつ出してもらったりとか、先生に入っていたりとかいってやられていますけれども、本当の意味での地域がまだ靴を脱いで入ってきてみえないと思うんですね。それをやるためには、今の共同で使う部分が非常に大切ではないかと。だから、もうこれはある意味では同時発車ぐらいで、失敗するかもわからないし、いろんなのでごたごたとトラブルするかもわからないけれども、早い時期に入れてこないと堀ができちゃうんじゃないかなと私は心配しているんです。

○井上教育長 視察は大事ですからね。

○吉田委員長 大口町は今の石樽とは多分違うスタンスで、物をつくっておいて体制ができたんじゃないあどうぞという体制ということですね、スタンスは。

○丹羽職務代理 でも、明日の学校づくりということも、結構最初の方からかかわってみえる方が多いですよ。私もその中のメンバーだったので、いろんなことの相談を受けていたんですね。

その中で、私はボランティアという形になるのか、どういう形になるのか、かかわれたらいいなあと思っていた一人だったので、明日の学校づくりのメンバーの中にもそう思ってみえる方が数人は見えるのではないかなあと思っているんですけど。

○井上教育長 今の議論の中で、一つだけお話ししておかなければいけないのが、役所や教育委員会だけでつくった学校ではないというふうに私どもは認識しているんですね。

それは、基本設計するのにもう1年以上かかって、何回という会議を重ねながらようやく基本設計ができたんですね。それはプロジェクトと、それから検討委員会、そしてそれが一緒になった合同ワークショップと、ずうっと黒川事務所も含めながら何回も何回も検討を重ねてきた結果が今あるんですよ。

私どもが描いていた当初の計画とはやっぱり違ったものになってきたんですよ、その中で初め私どもはこういうのをつくりたいと言ったのとは全然違うものになってきているんです。それは、やっぱりみんなで作るということが前提ですから、みんなで作る学校だよということで検討委員会も随分長い間検討して、黒川事務所も期待にこたえるべく何回か何回か書き直してできていますから、核になるのはやっぱり検討委員会が核になっていこうと。その代表であるPTAの会長さん方ももう何代か見えますので、そういうことを中心にしながら検討委員会でこれをお話、対応していただくというのはそこなんですよ。そこを基点にしながら、広げていきたいなあというふうに思っていて、どうやって広げていくことができるかなあ、どういう形が一番いいのかなあということは、今考えているところなんですよ。

だから、乖離した形にならないようにするには、先ほどの御意見のように、最初からやった

方がいいよということもありますね。最初から皆さん来てやってくださいよと。それから、例えば運営委員会をつくって、どここの代表、どここの代表というやり方でなくて、私がやってあげるよという人たちが集まってやるのがいいよとか、いろんな考え方がありますので、できたら本当に力のある、学校を支えていこうじゃないかという人たちが集まっていた方法を探していきなあとというふうに、今思っているところなんです。だから、初めからやった方がいいよとか、いや形の上のそういうものじゃなくて、本当に支えてやろうという人たちが集まったのがいいよとか、いろんなことを検討していく、そこのところが大事なところなんです。従来のように、代表を出してもらって検討すればいいやということではいかなあというように、今思っているんです。本当に力のある、やりましょうやという人たちが集まっていたといいんです。石樽もそうなんです。核になるのは、聖籠も石樽もそういう人たちがたくさん町の中にお見えになると。なるべくたくさん参加していただける、まさにみんなで作る学校だよというふうに、これからの中身をみんなで作っていくということが大事なあと。

形はそういうふうで一応みんなで作るとやってきましたけれども、安易にどういう団体やで、こういう団体、こういう団体をお願いしておけばいいわということにしない方がいいかなあということが今あるものですから、少し御意見がいただけたらと、こういうふうに思っているんです。だから、御意見をいただくと、それを参考にしながら本当にサポートしていただける人たちが集まっていたのかなあということを思っていますけれども、いい形でいきなあとというふうに思っています。

○吉田委員長 丹羽委員は、あまり住民といいますか、地域の人との取り組みというか、関連が少ない印象を持って見えるということですね。

○丹羽委員 いや、そういうんじゃないで、学校の運営が十分落ち着いてからやってみえるものだから、これは同時発車の方が私はいいんじゃないですかということを行ったの。

○井上教育長 学校をつくっていく段階では、子供たちへの説明会も何回かやりましたし、意見も聴取しましたし、北中の中で3年間、この統合について研究してくれた子供たちのグループがありますし、いろんなところでいろんな活動はしておりますから、それはそれでいいんですけれども、今度は中身をみんなで作るということにしたいものですから、あんまり安易にこれこれ、これこれ、これこれ、じゃあ集まってというふうにしな方がいいかなあという思いもどこかにあるものですから、いろんな御意見を伺いながら、なるべくみんながやろうやという、将来の学校づくりという中身を盛りたいなあとということを思っていますので、知恵があつたらぜひとも。

また参加していただきたいと思っていますけど、そういういろんな人にね。

○吉田委員長 コンセプトとしては、地域の人に参加をしていただくということなんでしょうけれども、学校の授業を中心に考えて、学校の体制ができてから徐々に入れていくという形にするのか、それとも多少ごたごたがあるだろうけど同時進行でという考え方もあるということ、この25日のときにも参考というか、こういう意見もありましたということで、それを踏まえた上で話を進めてもらうという形になりますか。

○井上教育長 そうですね。教育委員会ではこういう御意見もいただいていますけれども、一遍協議してくださいと。

○吉田委員長 そういうコンセプトがあれば、どんなやり方でも時間はかかるかもしれんけど、いずれは地域の人が参加という形にはなると思いますけれども、早い段階か時間をかけてかということになるかと思いますが。

御意見の方はこんなぐらいになりますでしょうかね。関連して……。

○田中指導主事 従来型の施設開放という考えではないというふうに僕は思うんですね。

地域の住民も、学校の中で何かを活動することによって学んでいくと。学校が一つになると、二つになったものがまた戻るという形で、一つになるということは、大石という町が一つの中学校、たまたま真ん中にあるものですから、そこへいろんな人たちが集う。集いながらみずからも学んでいく、そしてまちづくりの一つの核になっていくのではないかと、そんなような発想の学校にしていかなければいけないんじゃないかなあというふうに思うんです。ただ単に理科室を開放するだとか、そんなことじゃないように思うんですね。

そういうものの、今文部科学省が言っているのが「コミュニティ・スクール」というのがあるんですね。今二百三十幾つの学校が全国で研究を進めているんですけど、それはどこが立候補してもいいわけですが、国が言うのは、学校運営協議会というのをつくりなさいと。そしてその中で、評議委員会というのは校長会の校長先生の諮問機関ですよ。だから御意見をいただくんですけど、運営協議会というのは実際に学校の運営をしていく組織をつくるんですね。だから、東京なんかの例を見てみますと、運営協議会というのは人事もお金もかなり権限を持っています。杉並なんかへ行きましたら、17年度に校長さんが3月末で、1年で2人飛ばされているんです。

この前も、実は名古屋で全国のフォーラムがあつて1日参加したんですけど、文部科学省のはおもしろいもので、運営協議会というのはこういうものですよと。人事もお金も全部含めてやるものですよとぼんと出されるものだから二の足を踏むんだけど、実際に全国の発表を聞いたら、うちは人事のことは運営協議会の規則には入れてありませんよとはっきり言うんですね。僕の隣にたまたまその提案した偉い人がおったんだけど、あれでいいんですかと言ったら、好きなようにやってくださいと非常に幅広く考えておるんですね、文部科学省という

のは。だから、いわゆるチャレンジをしていってほしいというのが国の発想の原点かなあというふうに思うんですね。

だからこのコミュニティ・スクールの考え方というのは、やっぱり入れつつ学校がうまく回っていくのが一番いいかなあという、そのために、先ほど教育長も話をされましたけれども、サポートチームだとか、そんなような形になるけれども、私はサポートチーム以上の組織が必要かなあ。それは何かというと、自分たちが学校を支えてやるんだというんじゃないで、学校を支えると同時に自分たちも学んでいくと。いわゆる生涯学習の一番の原点のところの物の考え方を置いて学校が回っていくのが一番いいかなあというふうに思うんですね。

実を言うと、これは聖籠の本なんですけれども、たまたま手に入れてずうっと読んだんですけど、「学校という“まち”が創る学び」と。学校が一つの町みたいになっていると。いろいろな人がいろいろかかわり合って学校が運営されているというふうに書かれているんですけども、同じことがだあっと何回も何回も出てくるものだからちょっとくどいかなあと思いつつ読んでいたけれども、やっぱりスタートの時点というのは、丹羽さんがおっしゃるように、やはりうちのいろいろやってきた検討委員会の動きと、聖籠やこの前の石榑とはちょっと違うかなあということを感じるんですね。

そんな中で、じゃあそういう組織をどういうふうによく熟するようにしていくかということところが大きな課題かなあというふうに思います。だから、スタートした時点でそういうものがあって、いつでもできると。4月からやれるというのもそうかなあと思うし、学校の体制がなかなか整わないときに入っていくということは、組めないわけですね、プログラムとかそういうものがね。そういうのも難しいんだろうと思うんですけども、もうちょっと勉強しながら、早目に結論を出してやっていく必要があるかなあということはあるかなあという次第です。

実は、この前行った石榑小学校は、さっき言った国のコミュニティ・スクールの研究指定校なんです。あそこは多分人事は入っていないと思います。お金はかなり、いなべ市を通じてやっていると思うんですね、予算絡みのかなりあの人たちがいろいろ考えて出して、それを出してやっているんですけど、コミュニティ・スクールの発想は僕もちょっと、組合に人事、金、そんなところまでなんていうのでちょっと敬遠しておったんですけども、実際にフォーラムに参加してみたら、国は割とふわっと広い懐を持ってやっているなあということで、すごく勉強になりましたけどね。

だから、部屋の開放にしても、例えばそういう組織があれば、組織の人たちが管理の中心になっていただくような形になると思いますし、それからもっと言いますと、授業の中に一般の人が一緒に入っていくとか、これも一つの開放というのか、学びというか、生涯学習というところにつながっていくんじゃないかなあ。じゃあ学校の中でどういう部分でそういう人た

ちが入っていただいて、一緒に学びつつ支えていただけるかというところがどこにあるかということ、統合して学校が大きくなってどうやってやっていくかという中で、学校の現場の方がまだそこまで行っていないというのが現状だと思うんですね。だって、海のものとも山のものとも、どんなふうになっていくかわからないと。スタートしてみないとなかなか動きがわからないと。子供の動き一つとってみてもなかなかわからないという状況の中で、難しいなあということをおもいつつ、今さまざまな勉強をしたいなあというふうに思っておるところです。何のあれもありませんけど、ちょっとだけと申し上げました。

○吉田委員長 感覚としては二通りの道があって、失敗覚悟で同時にいろいろやっていくというのと、一つ一つ確実にこなしていくというのと、どちらをとるか。

コンセプトさえしっかりしておれば、時間がかかってもいいです。最終的には落ちつくと思えますけれども。

○田中指導主事 だから、我々教員も今までの発想を変えないといかんかなあということをおもいますね。こうであるべきだとか、こうであらねばならないというところから、そこをちょっと崩してみても、新しい方式だったし、いろんなことが入ってくるし、あれだけ立派な施設なものだから、何かチャレンジしていくような部分を持ってやっていく必要があるかなあということをおもいます。

○吉田委員長 そこは絶対だと思えますので、学校の校長先生を通して伝えていただきたいと思えます。

新中学校に関連して、よろしいでしょうか。

○井上教育長 今一番欲しいのが、そのエネルギーに当たる部分が欲しいんですよ。

今まで学校づくりをやってきたんですけども、そのエネルギーに当たる、その中核に当たる部分が欲しいんですよ。こういうふうにしたという人たちが集まらないといかんのですよね、形をつくるだけじゃなくて。

それが、例えば聖籠を見ておりましたも、教科センターはやめたげなという情報が流れてくる一方で、いやそうじゃないよと。文科省の言っておる学校経営の方向でやっておるよという情報もあるし、いろいろなんですよ。石樽の場合は、うちと違うのは、学校の建設委員会がその中に入っているんですけど、経済的にも随分うちとは違うつくり方をしていますね、校舎だけで21億というような。うちは1万2,500平米で大体27億3,000万か4,000万という。だから5,400平米だったかね、あれは。何か4分の1ぐらいで21億ぐらいかけているんですよ。そういういろいろな背景が多分違うだろうなあということはおもいますけれども、要はそのエネルギーの根源に当たる部分がどういう形になっているのかということなんですよ。

だから、先ほど言いましたように、どういう形にしていくかということも考えながら、それ

を支えていく力になるものが欲しいんですね。新しい学校はやっぱり中身を支えていく力が欲しいなあ。これが今盛らなければならないところですね。

校舎をつくるのには随分なエネルギーをいろいろなところからいただきましたけれども、1年間通しての夜の会議をやっていたり、ずうっとやってきましたけれども、そういう力を結集できるような仕組みづくりをしたいなあというのが一番の核です。

だから、それは初めからやった方がいいよという考え方もあるし、おいおいやっていけばいいのではないかという考え方もありますし。ハード面はそういうことで一応私どもが考えて、あるいはみんなで作るといって皆さん方の考えを持ってそこにできてきたものですから、あとはそれをどうやって活用しながら、今度は中身をやっていくかと。学校、あるいは生涯学習の中核になるような施設にしていかなければいけませんので、そこら辺のところでは少し御意見がいただけたらなあということなんです。

○吉田委員長 今の評議委員会みたいなものをということですか。

○井上教育長 いい方法はないかなあという、いい考え方がないかなあと思っていますけど、今、随分考えてきたんですけど、どういう形をとるか。この5年間ぐらいの間にいろんなことを考えながらやって、いろんな意見も聞いてきましたけれども、いろんな考え方があって、ああそうかということも、慎重にここのところはやって、動き始めたらぱっとやるのがいいかなあ、今、そういう判断をしていますけど。

○田中指導主事 課長さん、いるでしょう。石樽の実際に生々しい話をもう少し。この前行ったのは学校の話だったんだけど。

○井上教育長 今度はそのメンバーの方が出てみえる日に行って、一遍話を聞いてみると。こういうのがいいよというね。

本当は聖籠もそうなのよね。そこで実際にやってみえる人たちにどうやという話を聞いて、じゃあうちの実態から見てこういうのがいいぞというね。それを9月ぐらいに。

○田中指導主事 第3日曜日に大掃除をやると言ってみえたんです、あそこ。そういうことだったら人もたくさん見えるだろうから、一度そこへお邪魔して一緒にやらせてもらって、掃除も。それで話もひざを突き合わせて聞いてくるのもいいかなあという話をしておったんです。

○井上教育長 今度、土曜日だったかね、視察してもらうのは。

○田中指導主事 土曜日です。

○井上教育長 そうだね。土曜日にそれを視察していただいて、その後、今後の考え方、それから石樽へ行ったらどうだというような話もやるといいかなあというふうに思っていますけど。

○田中指導主事 先生、もしそういう話であつたら、一緒に行く人はおりませんかといって募って、そうやってやっていくものだと僕は思うんだけど。余りにもきちっと組織が決まって、さ

あやりましたというのなかなか難しいんじゃないかなあというふうに思うし。

○吉田委員長 その日には今度の25日のメンバーも行っていただく。

○田中指導主事 いやいや、そこまでは考えていないけど、どうだという話を出したんです。

○丹羽職務代理 募られたらいいんじゃないですか、行ってみたいという方も。

○吉田委員長 どっちにしても25日の今度の会は大事な会になりそうですね。

○井上教育長 大事な会議です、はい。

○吉田委員長 そんな話をさせていただいて……。

○丹羽委員 反対に、今田中先生が言われたように、地域から推薦で出てこられたといっても、聖籠を見たことがあるよとか、倉敷へ行ったことがあるよとか、瀬戸の小学校へ行ったことがあるよという人じゃないですよ。ただ普通の推薦で出てこられたんですよ。そういう中でぼんと地域の開放型のといっても、頭の中にイメージのない方が多いと話になるのかなあと思って、さっき。それで、メンバーはどういう方ですかとお聞きしたんですけどね。難しいですね。

○丹羽職務代理 聖籠のときには声がかかりましたよね。

○井上教育長 品野台か何か、見て回ったねずうっと、初めにね。聖籠へは今行っておらんかなあ。

○丹羽委員 聖籠は議員さんではなかったですか。あと2回。

○井上教育長 日帰りで行ったこともありましたね。

○丹羽職務代理 そうです。日帰りで声がかかったんです。

私は用があって行けなかったんですけど、行ってみえるメンバーが……。

○井上教育長 倉敷じゃないんですか。

○田中指導主事 倉敷です。聖籠は地震があってやめたんです。それで変わったんじゃないですか。僕、2年前、そんなようなことが。また違うんですか。

○井上教育長 いやいや、日帰りで行っているんです。齊慶先生たちがバスで、それで議会で、「何だおい、新潟まで日帰りで行ったのか」と言って、そのバスの利用について言われた覚えがありますので、「はい行きました」と言って、聖籠まで日帰りで行ってきておるはずですよ。いわゆる公用車の利用でね。

○丹羽委員 だから、メンバーが、そういう方が少なければ反対にいろんなたたき台というのか、事例というのか、こういうタイプでやられている学校もありますよというふうにしないと、何かさっぱりわからないという方が半数以上とかになったら困るなあと思ってね。

○井上教育長 だから、石博なんかは私らもまだこの間見たばかりなものですから、なるべくたくさん紹介をしながら議論をしていただくのがいいかなあということは思いますけどね。

○丹羽委員 百聞は一見にしかずといますからね。

○井上教育長 この間の石博も基本的な考え方は瀬戸の品野台ですね、あそこへ視察に行っているんですね、品野台小学校が。そういうこともよくわかりましたね。

○吉田委員長 やっぱり頭の中で想像するだけではわからない部分が多いと思いますので、具体的なものを見てもらったり、自分らもそうですけど、見るのは必要でしょうね。今の見に行くという話は、まだ計画ということですか。

○田中指導主事 これから課長の方で交渉してもらって。

○吉田委員長 ぜひ実現していただいて。

○井上教育長 学校の中で生涯学習のそういう形で使っていくというのは、高山の南小学校でしたかね、ここもそうやってやっている学校ですね。だから、生涯学習の利用のために人が置いてあって、そこで受け付けをしたり利用されるという、学校を利用する一つの形が高山にもありますけどね。

○田中指導主事 何か読んでみると、とにかくどえらい荒れておっらしいですね。

○吉田委員長 結果、よくなったという。

○田中指導主事 だから僕はどんな形でも、教科センターであろうと何であろうと、そういう一つの我が町、我が村の学校がこんなふうではいかんというものが一番根底にあった上で学校がつくられたと。その学校がつくられたって、この学校は僕は立ち直ったと思うんです。

だからあまり教科センター、教科センターというと、僕は学校の先生にも言うんだけど、これは手段であって目的じゃないんだということを現職教育の場でも言うんだけど。

ここの中にも正直に書いてあるんですよ。今でもおりますよと、そういう生徒は。だけど、地域の人たちも本当に学校の中で一緒になって授業をやったり、いろんな講座なんかもあったし、あるいは授業の中に参加していく中で、地域の人たちとのつながりというのが、個々のつながり、あいさつしたり、そんなものによって、以前の自分たちだけの世界に住んでおるような子供たちではないということが変わってきたことかなあということが書いてあります。

だから、学校が一つになって、新しい学校ですごく盛り上がっている中で、子供たちもそういう雰囲気にもまれるというとおかしいですけど、なっていくながら、自分たちもそれに参画しているんだという意識が強くなっていくんじゃないかなあというふうに思いますね。だから中にもまだいますよということが書いてあるんですね、正直に。

○丹羽委員 ここは、先生が行ったときは町が荒れていたんですよ。浜の人と山の人とが。要するに地域がけんかしているものだから、だから学校が荒れる前に地域が荒れていて、それを統一するために中学校の統合を利用したんですよ。

○井上教育長 いわゆる昭和の大合併に海側と内陸部が合併したけど、うまくいかずに、中学校

はそのなりに残したんだね、二つ。もういかんからということで一つにしようと。根底は、町の方がそういう町だった。町がけんかをしておってね。

○田中指導主事 そこら辺のベースが全然違うなあということを思います。

丸岡南は一つの学校が分離してできておるんですよね。実は、本当に教育長に早く行ってこいと言われておるんだけど、石川県の羽咋郡に志賀中学というのがあります。志賀というのは志賀高原の志賀ね。そこはやっぱり統合してつくられた学校なんです。それでこういう方式をやってみようということで、4月からスタートしている学校なんですよ。そういうところ方もまた勉強になるかなあと。やっぱり学校というのは、どんなふうな形でつくられてきたかというところ、スタートが似ているようなところを見ていくことが大事かなあということは思うんですね。

○井上教育長 分離と統合ではね。

○田中指導主事 全然違うと思いますよ。統合はやっぱり難しいと思うんですね。

分離してできた、例えば北中でも、最初は何でおれただけ北やとって、僕らスタートの5年ぐらい後に行ったんだけど、すごくそういうのはスタートであったという話を聞くもんですから、分離も難しいだろうけど、統合となると、今までやってきたのは同じ公立中学といったって違う部分はいっぱいあるんだから、これをどういうふうにまぜていくかというところに難しさがあると思うんですね。

○井上教育長 いろんな思いがあったということは、地区懇談会を14日間やりながら、いろんな意見は聞かせてもらったね。分離のときのいろんな意見もあったし、なかなか統合していくのも難しいかなあという中で執行をやったもんですから、いろんなそういうことも浮き上がってくるんですね、こういうときに。

○田中指導主事 本当に生々しい中身のところで先生方といろいろ話したけど、みんな不安を持っているんですね。だれでも不安はあるんやと。不安があるから従来型のところに行くという形ではやっぱり何の意味もないんじゃないと。チャレンジしていくというのか、さっきから言っておるんだけど、どうせならこうやってやってみようかとかいうようなもので持っていくと夢も出てくるし、大変だということは覚悟してやらないかんよという話は、両方の学校では話をしていくんですけど。

○吉田委員長 それでは、こんなところで終わりたいと思いますが、25日の検討委員会の結果も楽しみにしたいと思います。

それでは、どうも皆さん、長時間にわたりましてありがとうございました。

(午前10時45分)

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

委 員 長

委 員